

令和3年度 学力調査結果報告

全国学力・学習状況調査およびすくすくウォッチの全体概要

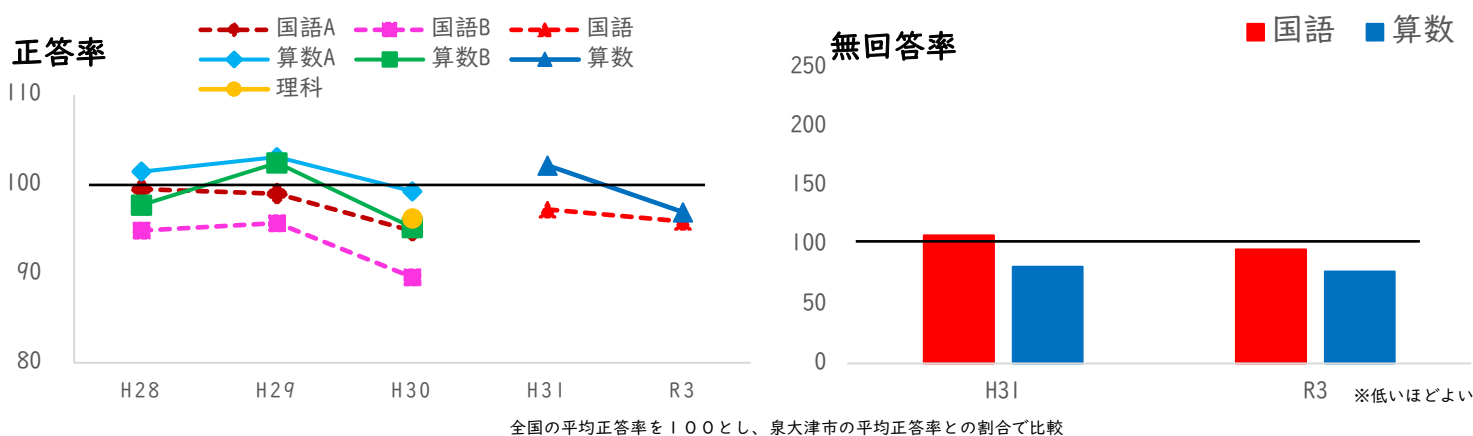
1. 全国学力・学習状況調査から

小学校結果

【正答率比較】 全国の平均正答率を100としたとき、泉大津市の平均正答率がどのような割合になるかで正答率、無回答率を比較しました。

国語の正答率は、全国平均をやや下回り、前回と比較しても割合がやや低くなりました。算数も全国平均を下回りました。前は全国平均を上回っていたため大きくポイントを下げたと言えます。

無回答率はいずれも全国平均より低くなり、特に国語は、前回、全国平均より高かったため、無回答は減り、改善が見られたと言えます。

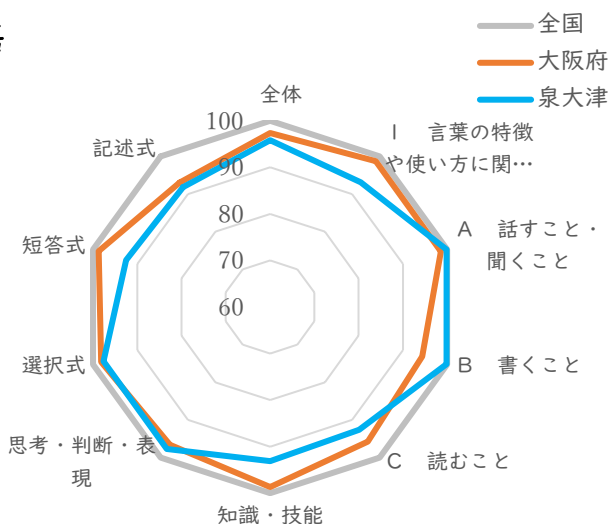


【領域・観点・問題形式別】 全国の平均正答率を100としたとき、各領域、観点、問題形式の正答率がどのような割合になるかで、大阪府の結果と比較しました。

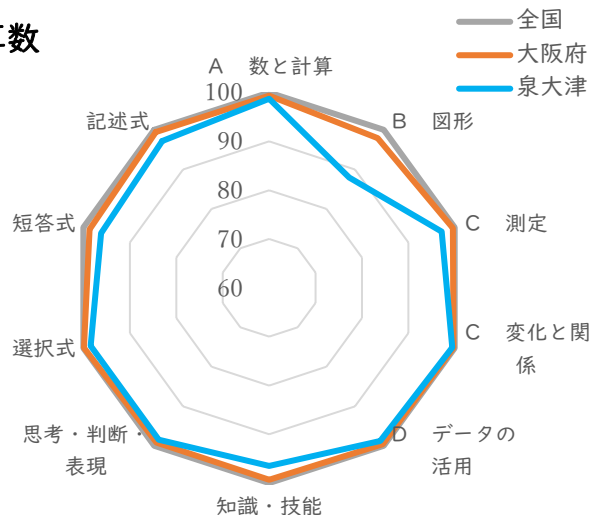
国語は、「記述式」の「読むこと」、「短答式」の「言葉の特徴や使い方に関する」「知識・技能」の問題で正答率が全国平均、大阪府平均を大きく下回りました。記述式であっても、正答率が高い問題もあり、問題形式における課題よりも、「読むこと」や言葉に関する問題で課題が大きいといえます。

算数では、「図形」の問題で、全国平均、大阪府平均を大きく下回りました。全体的な正答率は高く、問題形式では大きな差がないため、単元によって差があると言えます。

国語



算数

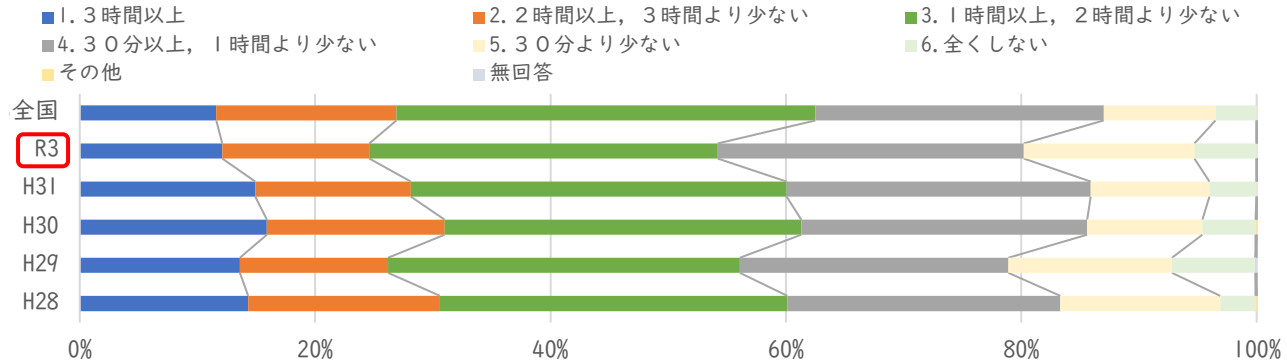


全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較

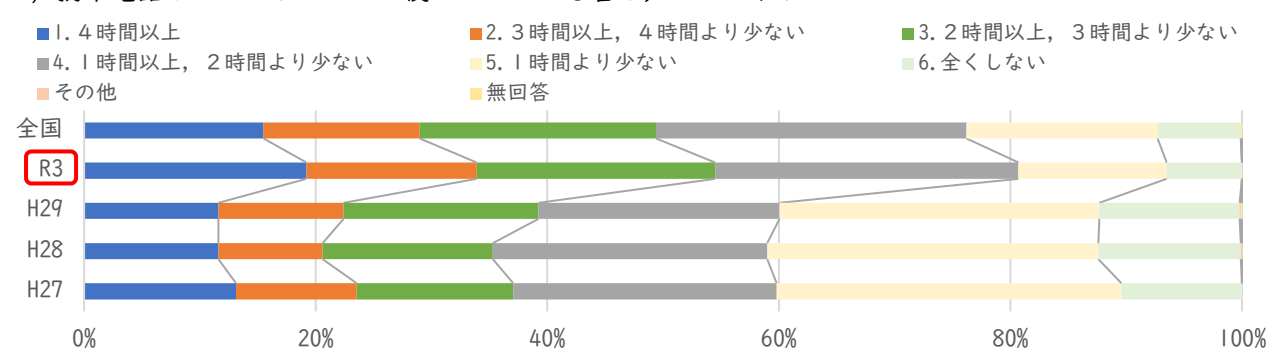
【学習状況調査結果】 家庭での学習時間は、平日に30分以上する児童は前回の調査よりも少なくなり、全国平均と比較しても、大きく下回りました。対照的に、家庭で大きく増えたのはテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間です。1時間以上する児童が全国を上回っただけでなく、平成29年の調査から、やく20ポイント増えました。家庭での学習時間が減り、ゲームをする時間が増えていると言えます。

学級での授業については、主体的・対話的で深い学びに関する質問で、全国平均を上回り、経年変化においても、肯定的な回答が増え、改善が見られました。また、今回初めて質問された授業でのICT機器の使用に関する質問については、全国平均を大きく上回り、60%以上の児童が、週1回以上はICT機器を使用、20%以上の児童が、ほぼ毎日使用していると回答し、活用が進んでいるといえます。

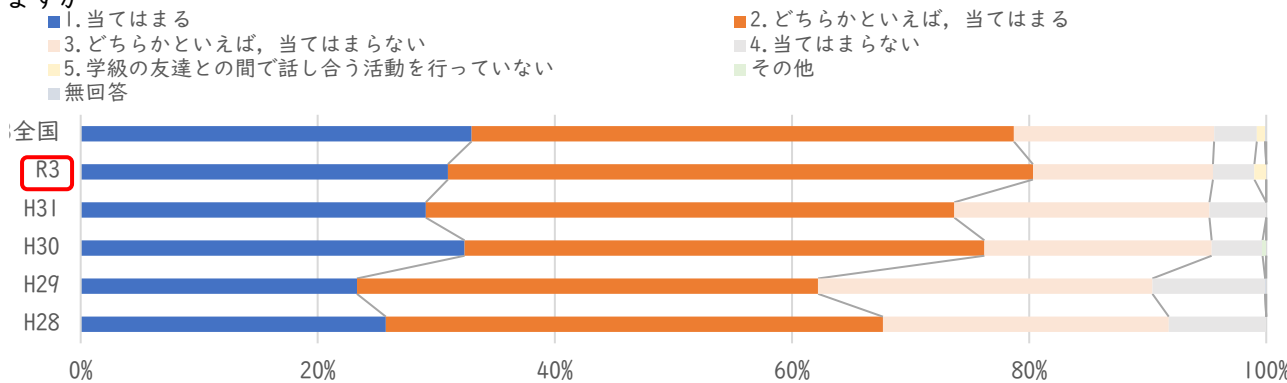
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



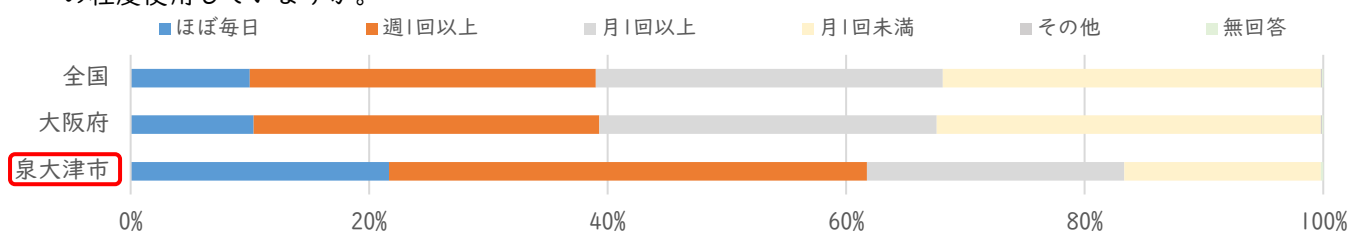
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見交換をしたり、調べたりするために、どの程度使用していますか。



中学校結果

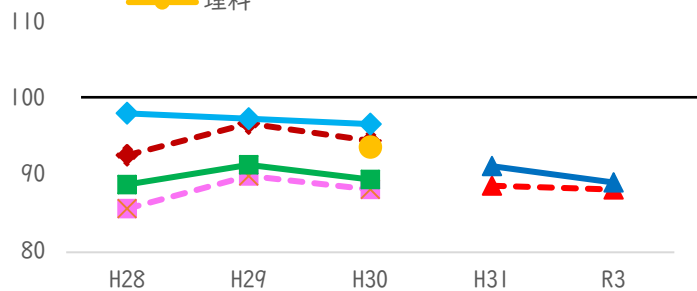
【正答率比較】 全国の平均正答率を100としたとき、泉大津市の平均正答率がどのような割合になるかで正答率、無回答率を比較しました。

国語の正答率は、全国平均を大きく下回り、前回と比較しても割合がやや低くなりました。数学も全国平均を大きく下回りました。前回と比較しても、国語より大きく下降しています。

無回答率はいずれも全国平均より高くなりましたが、前回より割合は小さくなりました。特に国語は大きく無回答率を下げたため、改善が見られたと言えます。

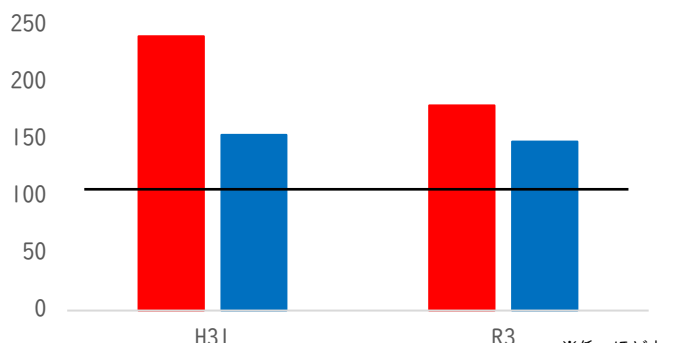
正答率

- 国語A (赤点線)
- 国語B (紫点線)
- 国語 (赤実線)
- 数学A (青点線)
- 数学B (緑点線)
- 数学 (青実線)
- 理科 (黄点線)



全国の平均正答率を100とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較

無回答率



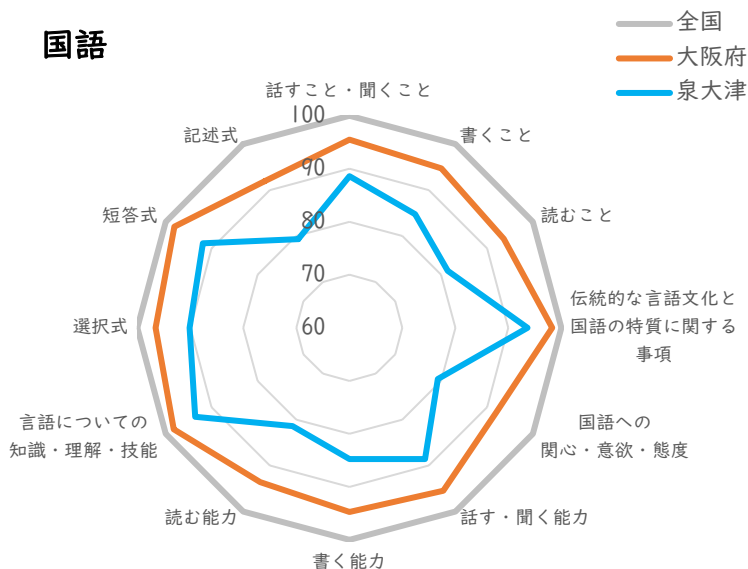
※低いほどよい

【領域・観点・問題形式別】 全国の平均正答率を100としたとき、各領域、観点、問題形式の正答率がどのような割合になるかで、大阪府の結果と比較しました。

国語は、全体的に全国平均を大きく下回りましたが、「記述式」「読むこと」「国語への関心・意欲・態度」「読む能力」が特に大きく下回りました。

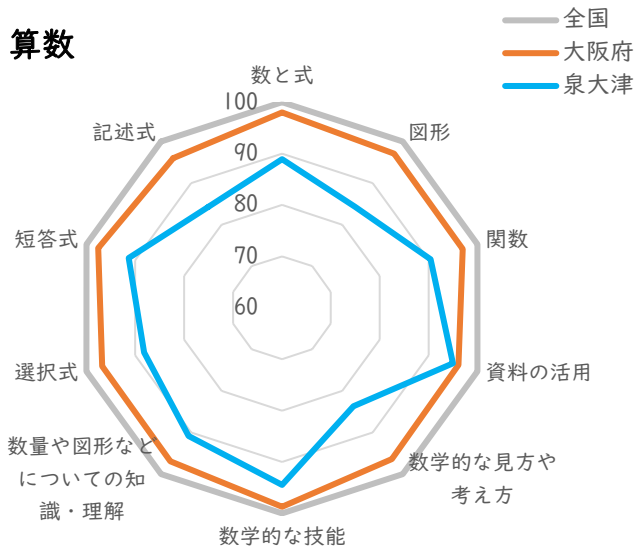
数学も、全体的に全国平均を大きく下回り、「記述式」「図形」「数学的な考え方」が特に大きく下回りました。数学の「資料の活用」「数学的な技能」をのぞくすべての項目で全国平均、大阪府平均を大きく下回り、特に課題となる「記述式」の問題への対応、国語の「読む能力」、数学の「図形」「数学的な考え方」以外にも、課題が多いといえます。

国語



全国の平均正答率を1とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較

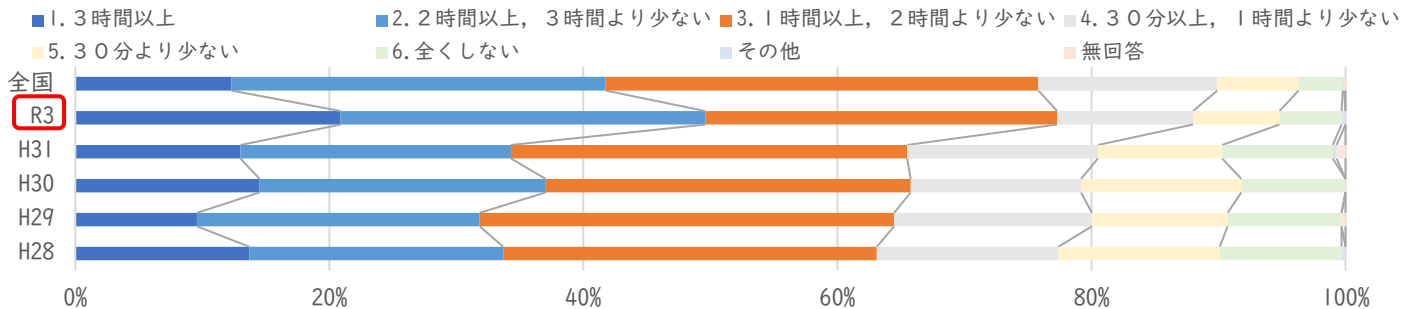
算数



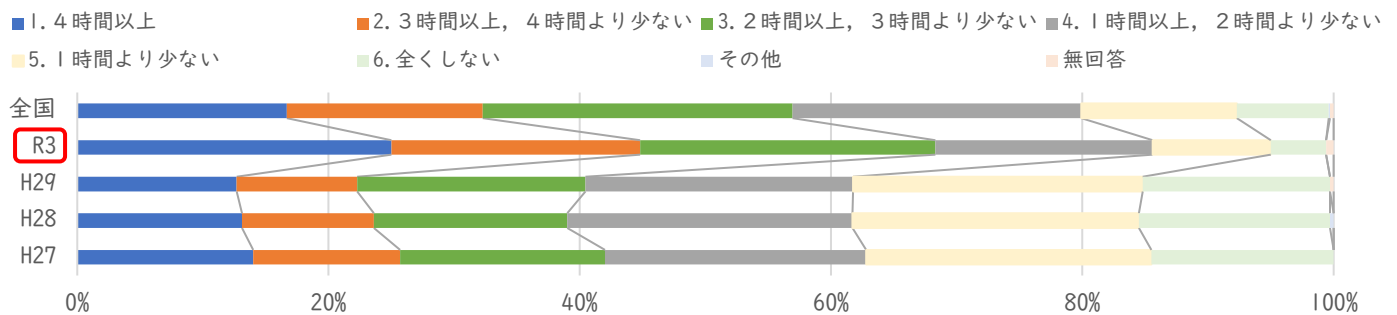
【学習状況調査結果】 家庭での学習時間は、平日に1時間以上学習する生徒は前回の調査よりも多くなり、全国平均もやや上回りました。これは改善点といえますが、「30分より少ない」「全くしない」という生徒は全国平均よりやや多くなりました。同時に、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を1日3時間以上するという生徒が、前回よりも大きく増えています。

学級での授業については、主体的・対話的で深い学びに関する質問で、経年変化を見ると、肯定的な回答が増え、改善が見られました。全国平均との差もほとんどなく、改善が見られます。また、今回初めて質問された授業でのICT機器の使用に関する質問については、全国平均を大きく上回り、70%以上の生徒が、週1回以上はICT機器を使用、30%以上の生徒が、ほぼ毎日使用していると回答し、活用が進んでいるといえます。

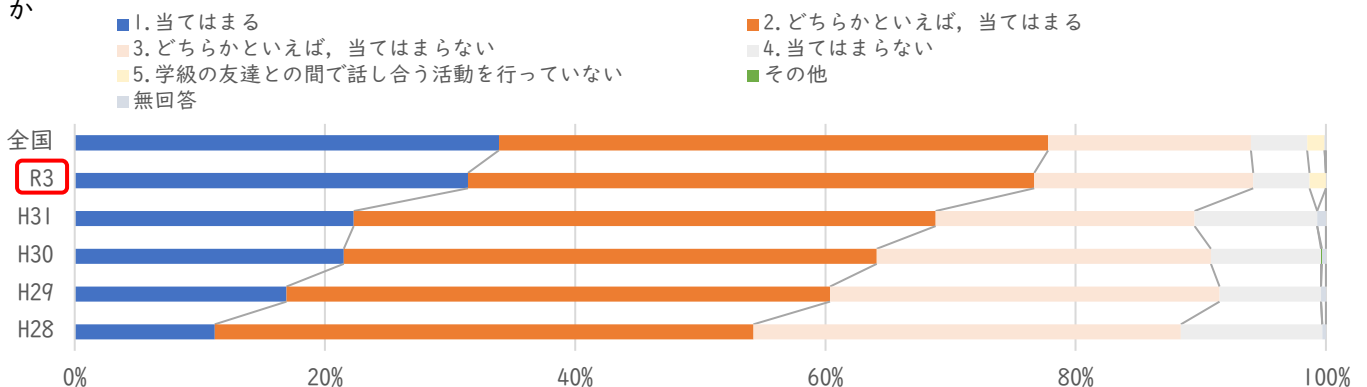
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



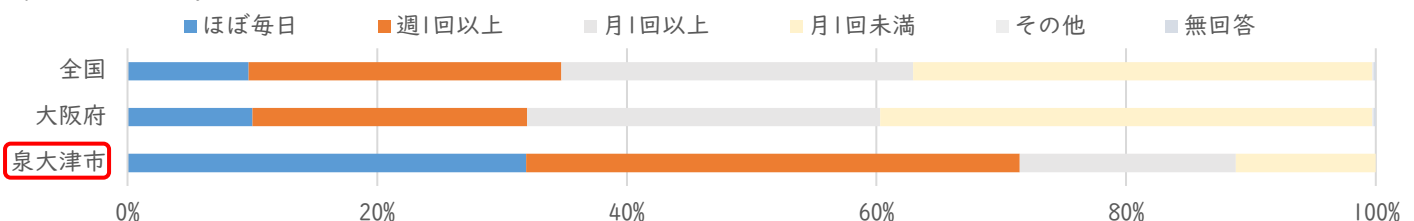
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見交換をしたり、調べたりするために、どの程度使用していますか。



2. 大阪府新学力テスト「小学生すくすくテスト」から



今年度より、全国学力・学習状況調査の実施に合わせて、大阪府独自の学力テストが、小学5・6年生を対象に「すくすくテスト（愛称：すくすくウォッチ）」として実施されました。



【実施内容】

5年生…国語・算数・理科・わくわく問題（教科横断型問題）・児童アンケート

6年生…わくわく問題（教科横断型問題）・児童アンケート

教員…教員アンケート（5・6年生の指導に関わる教員）

【各教科の結果（5年生）】

国語・算数の正答率は、大阪府平均をやや下回りました。理科は大阪府平均をやや上回りました。国語では、基礎的な文法に関する問題が多く、主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係など、文の構造に関する問題で課題が見られました。算数では、図形とデータの活用に関する領域に課題が見られました。理科では、知識技能面での定着に成果が見られました。また、泉大津市で毎年課題とされていた「記述式問題」では大きな課題は見られず、成果が見られる学校もありました。

【わくわく問題（教科横断型）の結果（5・6年生）】

わくわく問題では、多様な他者と協働し、探求的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力として問題が設定されています。平均正答率は大阪府をやや下回りました。「興味・関心のある事柄について意欲的に工夫して相手に伝えようとする」ことに強みが見られました。しかし、図や表、グラフ、短い文章、会話文等を、関連付けて正しくとらえたり、順序良く論理的に考えたりすることに課題が見られました。また、わくわく問題においても「記述式の問題」には大きな課題があるとは言えませんでした。

【アンケートより（児童・教員）】

アンケートからは、教員と児童の関係やICT活用に関する設問に強みが見られました。しかし、未来に向かう力（非認知能力）や学校生活における主体性に関する設問での肯定回答が、児童・教員ともに府平均と比較するとやや低いことが分かりました。